



つむぎだより No.34

＝今年の抱負＝

皆様、年始はいかがでしたでしょうか？「一年の計は元旦にあり」と言いますが、新しく何かを始められた方も多いのでは、と思います。当法人でも「今年の抱負」をスタッフ全員に発表してもらいました。

日々のことを語る人、今年1年で習慣づける目標を持った人、新たなチャレンジを起こそうとする人など様々でした。私自身の「今年の抱負」は、コロナも落ち着きを見せ始めましたので、“人と会う”ということに意識を向けて、たくさんの人々に直接お会いしていくことです。

コロナ禍の中の法人設立でしたので、最近になってやっと業務が落ち着いて回るようになったと感じます。ですから今年という年は、しっかりと大地に根を張るような気持ちで、前に進んでいく心づもりです。

加えて、もう一人の代表が、“スリム”になることを願いつつ、見守っていきたいと思います。(スリムというのは、どのような状態なのかはあまり追及しないことにします……) (川東)

1、「多様な正社員」の現状

無期転換ルールによって無期雇用となった社員の重要な受け皿の1つとして、勤務地限定正社員や職務限定正社員、労働時間限定正社員などの、いわゆる「多様な正社員」が注目されています。

企業側、労働者側それぞれについて、労働政策研究・研修機構が調査を行った結果(2021年実施)が公表されました。

企業調査の対象は、従業員規模30人以上の全国の民間企業、約5,700社。労働者調査は20歳以上の正社員、契約社員・嘱託、パート・アルバイト、派遣社員の約2万人から回答を得たものです。

◆多様な正社員がいる企業は2割弱

勤務地限定・職務限定・労働時間限定の「多様な正社員」がいる企業は、全体の18.3%でした。

◆採用方法

企業が多様な正社員を採る方法は、「中途・通年採用」の割合が最も高くなっています。「有期契約労働者からの転換」や「無期転換社員からの転換」によっている企業の割合も約2割ありました(複数回答あり)。

◆トラブル

限定された労働条件の変更や、限定内容に反する内容、限定区分の変更による配慮の有無について、トラブルが生じているようです。

トラブルの原因として最も多かったのは、企業側からは「区分変更の申入れが拒否された」、労働者側からは「会社都合で限定内容が変更された」というものでした。

また、企業が「限定内容の説明をしていなかった」、あるいは「限定内容について規定していなかった内容が生じた」ため、より多くのトラブルが発生している、との報告がなされていました。

働き方の多様化への対応のために、ぜひ調査結果に目を通されることをお勧めします。

なお、無期転換については、労働条件の明示事項の追加等が検討されています。今後の動向にはご注意ください。

【労働政策研究・研修機構「多様化する労働契約の在り方に関する調査」】

<https://www.jil.go.jp/institute/research/2022/224.html>



＝季節のコラム＝

快晴の冬の夜空では、「オリオン座の三つ星」が目を引きますね。

ギリシア神話では、海神ポセイドンの息子オリオンが「地上に住む全ての獣を殺す」と高言したため、怒った地母神ガイアは、巨大なサソリを遣わしてオリオンを刺し殺させたといわれます。今でもオリオンはサソリを恐れて、東の空からさそり座が現れるとオリオン座は西の地平線に逃げ隠れ、さそり座が西の地平線に沈むと安心して東の空へ昇ってくるのか。

少し目を凝らしてよく見ると「三つ星」の下に縦に並んだ「小三つ星(こみつぼし)」が見えますが、真ん中の光は、実は星ではなく「オリオン大星雲」。ガスがひととき濃い部分では、現在も星が誕生し続けているそうです。(鹿島)



社会保険労務士法人つむぎ

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目1番22号

フェアステージ大手前ビル7階

電話: 06-4397-3358

FAX: 06-4397-3359

Email: info@sr-tsumugi.or.jp

営業時間

平日 9:00～18:00

HP: <https://sr-tsumugi.or.jp/>

2、コロナ禍における職業生活のストレス

◆コロナ禍でどう変わった？

日本労働組合総連合会(連合)は、コロナ禍における職業生活に関する意識や実態、ストレスの状況を把握するために、「コロナ禍における職業生活のストレスに関する調査2022」を行い、その結果を公表しました。(18～65歳の被雇用者1,000名の回答を集計)

調査では、「コロナ禍前と比べて、仕事や職業生活に関してのストレスが増えた」と答えた方が36.6%いました。働き方や仕事の進め方などが変わったことにより、人間関係や仕事量の変化などのストレス要因が増えたためと見られます。一方で、「変わらない」が55.1%、「減った」が8.3%と変化にうまく適応できた方も一定数以上いたことがうかがえます。

◆ストレスを感じている人は74.3%

現在、自分の仕事や職業生活に関して、「強い不安、悩み、ストレスとなっていると感じるものは何か」を聞いたところ、「職場の人間関係」(30.9%)が最も高く、「仕事の量」(22.8%)、「地位・待遇」(19.9%)と続き、

何らかのストレスを感じている人の割合は74.3%にのびりました。

労働者のパフォーマンスを上げるためにも、企業はこうしたストレスを軽減させる努力をしたいものです。

◆適正な人員配置・組織体制の重要性

働くうえでのストレスをなくすために、施策として希望するものを聞いたところ、「適正な人員配置・組織体制などの見直し」(39.1%)が最も高くなり、その次が「仕事の進め方の改善、業務配分の見直し」(32.0%)でした。

現場の声に耳を傾けながら、バランスのとれた組織づくりを目指したいものですね。

【コロナ禍における職業生活のストレスに関する調査 2022(連合)】

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/info/chousa/data/20221208.pdf?1151>



3、今月のおすすめ本

今月は、「ゴミ拾いをすると、人生に魔法がかかるかも♪」(著者:吉川 充秀 出版:あさ出版)をご紹介します。

株式会社プリマベール会長兼CGOの吉川さんの著書です。日常的にゴミ拾いをしているという、「ゴミ拾い仙人」でもありません。

ボランティアで頑張っている、という意味にも取れますが、ちょっと違います。本当に楽しんでゴミ拾いをされている様子が、本を読んでも感じます。ゴミ拾いをすることで、いろんなことに気づくことができるそうです。普段見ている景色とは違ったものが見えるのでしょうか。

決して無理することなく、楽しみながら人生を変えることができる“魔法”。

私も”自分に合った魔法“を見つけられるよう、探していきたいと思います。

(川東)

